

阿南ふるさと探訪

その61

阿南市文化財保護審議会会長

湯浅良幸

室町幕府・平島公方(二五)

まむしよけのお札

「平島公方」は、四、五回で打ち止めるつもりだった。しかし、書いているうちに書き落としたことや読者からの要望、質問などもあり、気が付いたら二十五回も掲載したことになる。

この小文を県内外の読者が熱心に読み、しかも次号を待たせてくれていることを知り、大変うれしく思っている。

以下「落穂集」のもつりて書
「まむしよけ札」は約二十枚見つかったっており、「平島公方史料集」口絵には十六枚を掲載している。紙形、紙質もさまざまである。筆跡も何種類かある。これは相当長期間にわたり交付されたことを示している。文字も阿州 足利家、阿波 足利家、足利家 阿州、足利家があり、

角型の朱印が押されている。

これらの札は、なぜ発行(交付)されたのだろうか。まず、「まむしよけ」の名称だが、この札がまむしよけのために交付されたとの記述はどこにもない。口伝に過ぎない。

考えられることは、この札は公方家の収入を図るために考案され「発売」されたものだろう。確認されているだけでも約二十枚あるから交付数はおびただしいものと考えられる。

当地方は農村地帯であるためまむし(一般的にハミと言っている)が多い。

残存枚数が少ないのは「蘇民将来」「白仏言」の札のように各家の戸口に貼って長虫の家屋侵入を防ぐまじないと魔除けとされたものと考えられる。また外出時、護符として所持したこ

とも考えられる。筆者が所持(目下所在不明)している札は四つ折りされていたから「お守り」用として使われたと思われる。

岩松家の「虎の絵」はよく知られている。財政上の必要から同家当主によつて相当数描かれ売却された。

岩松氏は新田氏の支流で、上野国新田郡に居住したが、新田氏一族は南朝方として活躍したためにほとんど滅された。

家系を続けられた岩松家は例外である。こんな話がある。徳川家康が天下を取った時、徳川家を源氏の末裔とするため源氏の末流に対し系図の閲覧(提供)を求めた。岩松家にも同様の申し入れがあったが、取り上げられることを恐れた当主が見せな

かった。そのため、嫌がらせを受け禄高百二十石しか与えられ

なかった。身分は交替寄合(高級旗本)であるため参勤交代が課せられた。しかし、たった百二十石の禄高では参勤交代は大きな負担だった。そのため岩松氏は「虎の絵」を気やすく描き売却して収入とした。

ついでに書けば華族(五爵)制施行に際し、南朝方忠臣の子孫を探し出し爵位を与えた。岩松家は新田氏(明治維新後岩松氏を新田氏と改姓)の末流のため男爵と授けられた。同じく菊池氏、北畠氏、名和氏なども男爵に列せられた。名和氏は系譜上あやふやだったが、名和長年が南朝の功臣のため華族とされた。楠正成の子孫は不明だったため授爵は見送られた。

(この項終り)



平島公方史に関する資料を1冊の本にまとめた「平島公方史料集」を、阿波公方・民俗資料館で販売しています。

販売価格 1冊3,000円
発行日 平成18年3月17日
問い合わせは 阿波公方・民俗資料館
(☎42-2966)へ



マムシよけ札(阿波公方・民俗資料館陳列)